



風は弱く、薄曇りの日。アカマツの梢にヒヨドリがいました。飛び立つと同時に体を反転させようとするようなアクロバティックな動きを見せました。春が近くなるとこのような小鳥の姿を見ることがあります。繁殖の季節に向けて動物質の栄養を取ろうとするのかなと思います。羽化し始めたユスリカなどを捕食しているようです。



トビ キャンプ場の東の林の上の方になじみのある鷹の仲間が止まっていました。大きな体でM型の尾羽が見えました。舞い上がると尾羽を広げ、三味線のぼちのような形になります。



ベニマシコの雌
調整池のアキニレに止まって、実をついばんでいました。セイタカアワダチソウなどいろいろな種子を食べているのを見ます。雄は体が赤く見えます。



ヒイラギ
葉の縁が棘状で触ると痛い木です。古語で痛いことを表す「ひいらぐ」からきた名前のようです。モクセイ科でほのかな芳香があります。ヒイラギは年を経ると刺が少なくなります。



ハシブトガラス 公園にはハシボソガラスもありますが、少し大きめでカーカーと澄んだ声で鳴くカラスです。本来は森のカラスですが、近年は都市部でもよく見られ、脂質を好みます。知能が高くさまざまな行動が知られています。



蛾の卵(孵化後)
2 ヶほどのヤマユガ科の卵です。サクラバハノキに産んでいました。オナガミズアオかオオミズアオか断定はできません。周りの落ち葉にくるまれて蛹で越冬していると思うのですが探す余裕がありませんでした。



タケカレハの繭
以前は笹の葉に付いているのをよく見かけましたが、最近は数を減らしているようです。幼虫は5月頃、左のように色鮮やかな姿(毒針毛を持つ)でよく目立ちます。蛹には上のように、黒色の斑点が見られます。





アカスジシロコケガ繭

ナツハゼの冬芽を観察中に見つけました。織物のように縦横に編んだ？ように見える粗い繭に、羽化後と思われるさなぎが見られます。種類の見立てが正しければ、樹皮にあった地衣類を食べる幼虫が長い直毛を利用して左写真のような繭を作ったと思われます。成虫にはまだ出会えていません。



ナガコガネグモ卵のう夏～秋に左のように鮮やかな雌が見られます。中には1000個ほどの卵が入っているようです。



シロカネイソウロウグモ卵のう直径はわずか3mmほどでした。



親(左)も3mmほどしかありませんが、銀色に輝くきれいな蜘蛛で、ジョロウグモの巣でよく見られます。網主の獲物を盗み食いするようです。



冬芽・葉痕
アズキナシ
赤茶色の芽鱗に被われた冬芽の下に半月形の葉痕が見えます。芽鱗は冬の乾燥から若い芽を守っています。葉痕には水や養分の通り道が残って見えます。



ミコアイサの雌

2羽いたのですが、警戒心が強く、人の姿に驚いて水面を這うように飛んでいきました。頭には帽子のような茶色い羽が見え、翼の先の風切羽根が黒く、白い雨あまおおい覆に黒い筋が見えます。

植物 花(サザンカ)、冬芽(サクラバハノキ雄花・雌花・葉、ナツハゼ、オオバヤシャブシ、クロミノニシゴリ、アズキナシ、サカキ、ヒサカキ、タラノキ等)、実(メリケンカルカヤ、セイタカアワダチソウ、シャリンバイ、ヒサカキ、ナンキンハゼ、センダン、カナメモチ、ソヨゴ、アオツツラフジ、ナンテン、ノイバラ、クズ、ヌルデ、カモメヅル等)、苔(カラヤスデゴケ)、羊歯(マツバラン胞子葉)、**昆虫** 蝶(ウラギンシジミ・コナラ枯葉の裏)、蛾(ナミスジフユナミシャク、ウスバフユシャク、みの虫(ヒモミノガ)、タケカレハ羽化繭、アカスジシロコケガ羽化殻・繭)、オナガミズアオ? 孵化後の卵、ウスタビガ繭、コウモリガの巣、アラカシ葉食い跡)、イセリアカイガラムシ、ムネアカハラビロカマキリ卵のう、チョウセンカマキリ卵のう、キボシトックリバチ巣、**クモ** ネコハエトリ、アシナガグモ幼体、卵のう(ナガコガネグモ、シロカネイソウロウグモ、ジョロウグモ)、**鳥、その他** トビ、ベニマシコ雌、メジロ、ジョウビタキ、モズ雄と雌、シジュウカラ、ルリビタキ雄、アオジ、カシラダカ、ヒヨドリ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、カルガモ、コガモ、ミコアイサ雌2、カイツブリ鳴く2、オオバン、ホシハジロ、カンムリカイツブリ1、アオサギ、コジュケイの声、カナメモチ実・鳥の食い後、虫こぶ(ソヨゴメタマフシ)、から池周りの乾燥による地割れ、霜柱跡